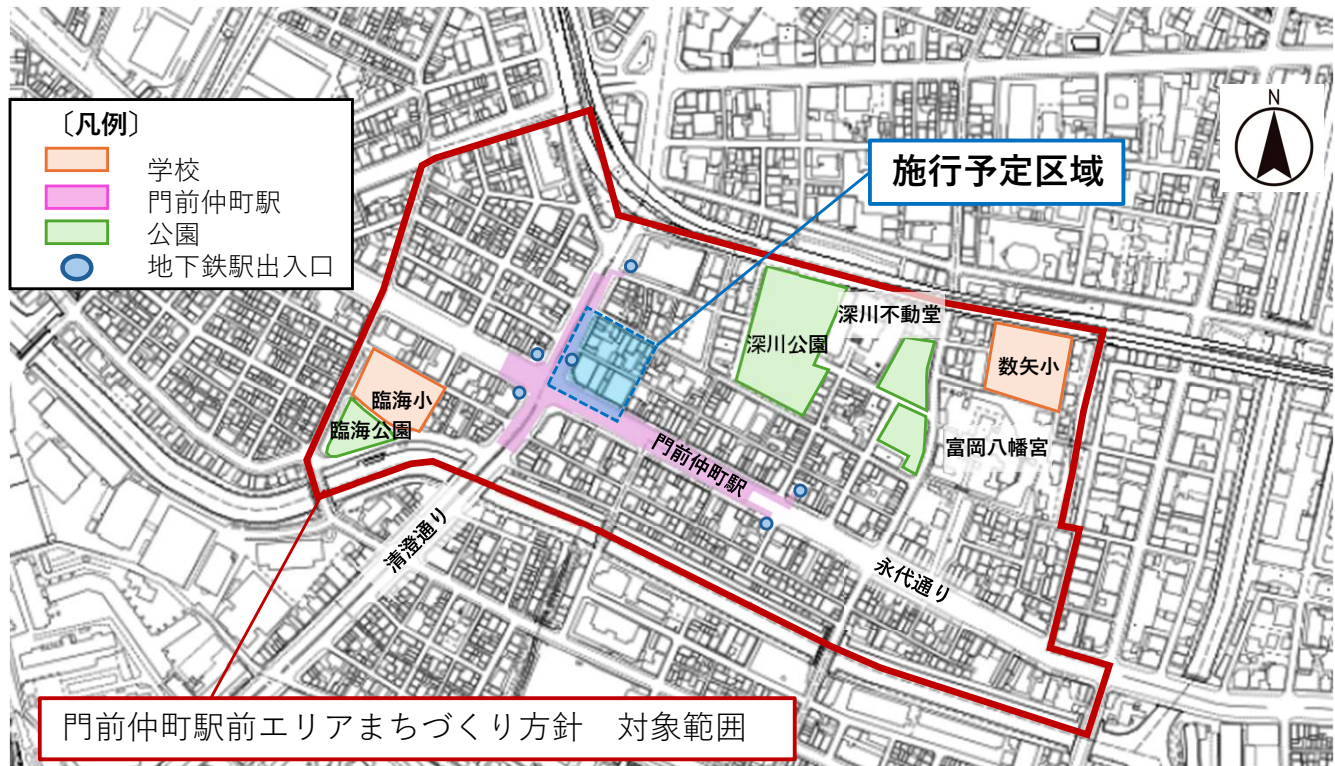


位置図



計画概要

計画地の位置	門前仲町二丁目5・6番(住居表示)
施行区域面積	約0.7ha
地域地区	商業地域(指定容積率:600%・400%、指定建蔽率:80%)、防火地域
事業手法	第一種市街地再開発事業(組合施行)
敷地面積	約3,780㎡
建築面積	約2,600㎡(建蔽率:約69%)
延床面積	約49,300㎡(容積率:約884%)
建物高さ	約144m
構造	鉄筋コンクリート造
階数	地上33階、地下2階
主要用途	店舗、事務所、住宅
住宅戸数	約320戸
駐車台数	約140台

まちづくりの経緯

平成28年度	地権者により再開発の検討を開始
平成30年度	門前仲町駅前地区市街地再開発準備組合 設立
令和元年度	地域団体が区へ「門前仲町・富岡地域まちづくりに関する要望書」を提出
令和2年度	地域団体が区へ「門前仲町・富岡地域まちづくり方針策定推進に関する要望書」を提出
令和4年度	門前仲町駅前エリアの将来像を考える会(まちづくり準備協議会) 設立
令和5年度	門前仲町駅前エリアの将来像を考える会から区へ「門前仲町駅前エリアの将来像を考える会 検討内容のまとめ」を提出
令和7年度	準備組合が区へ「門前仲町駅前地区事業エリア別まちづくり方針」を提出 区が門前仲町駅前エリアまちづくり協議会を設置
令和8年度	区が「門前仲町駅前エリアまちづくり方針」を策定(6月)

配置図



イメージパース



■ まちづくりのコンセプト：江東区の西の玄関口に相応しい駅とまちが一体になった新たな駅前拠点の形成

■まちづくりの整備方針

1. 駅前拠点としての機能の拡充

- 地域の核となる交流拠点として駅前広場[①]を整備
- まちのにぎわい形成に繋がる商業・業務機能を集積
- 多様な世帯の居住に対応する質の高い住宅を整備

2. 誰もが快適な歩行者ネットワークの形成

- 地上の駅前広場[①]と貫通路[②]、地下広場[③]を整備し、安心して移動・滞留・交流できる環境を形成
- 敷地外周にバリアフリー配慮の歩道状空地[④]を整備し、まちの回遊性を高める歩行者ネットワークを形成
- 地下鉄乗換え時のバリアフリールート[⑤]を整備
- 地下鉄出入口[⑥]の整備

3. 地域の防災性の強化

- 地域の防災拠点となる駅前広場[①]の整備
- 水害・震災時の一時的な避難の場[⑦]を確保
- 地域の防災備蓄倉庫を整備
- 地域と連携した自主的な防災訓練の強化・推進

4. 持続可能なまちづくり

- 周辺と調和したまちなみを形成
アーケードとの連続性の配慮／歴史資源(深川不動堂・富岡八幡宮)をイメージした低層部デザイン[⑧]／まちの路地的スケール感を意識した商業施設
- 駅前広場[①]を活用したエリアマネジメントを実施し、地域と連携し、まちのにぎわいを醸成
- 地域の核となる駅前広場[①]で、深川八幡祭りや東京マラソン等のイベントとの連携

■駅前広場の利用イメージ



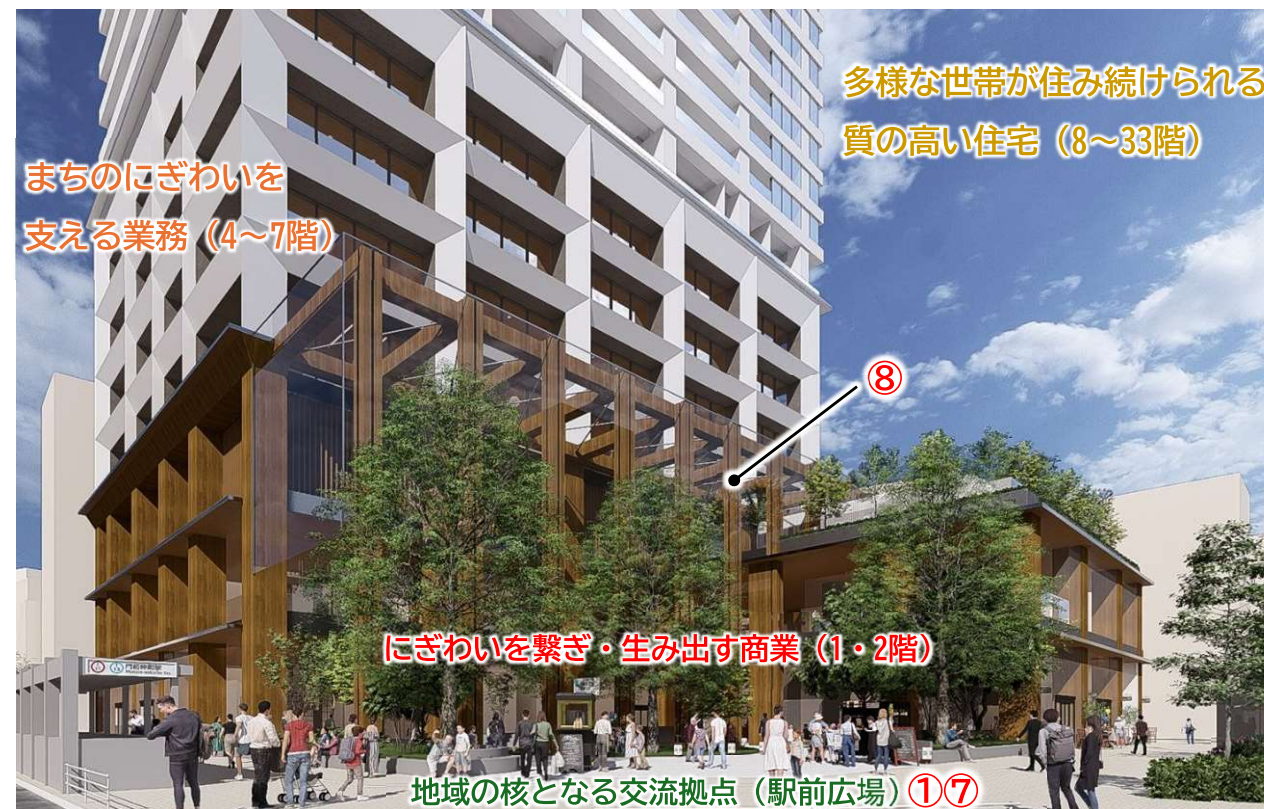
日常の利用イメージ

※建物デザインは現計画と異なります



深川八幡祭りの利用イメージ

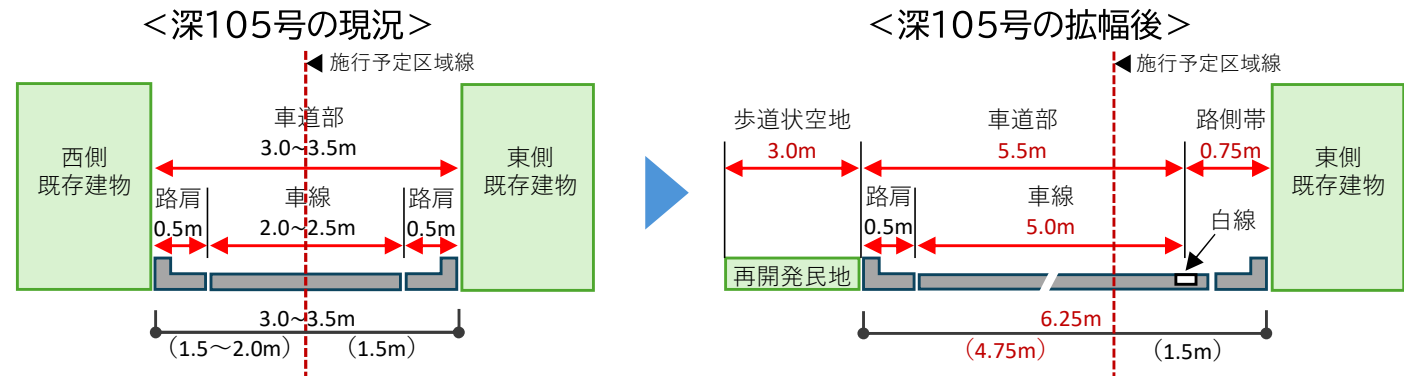
※建物デザインは現計画と異なります



■ 街区の一体利用に伴う、施行予定区域内の道路の廃止・拡幅



名称	都道／区道	現況幅員	従後幅員	再開発に伴う変更内容
特別区道 深104号	区道	4.0m	—	施行予定区域内の道路廃止
特別区道 深105号	区道	3.0～3.5m (区域内1.5～2.0m)	6.25m (区域内4.75m)	拡幅



【区道の廃止】

- 街区の一体利用を図るため、特別区道深104号の一部を廃止する。
⇒右図(現況・従後)の通り、車両の通行ルートに変更が生じる。
⇒現状と同位置に歩行者専用の貫通通路を整備し、安全な歩行者空間を創出。

【区道の拡幅】

- 狭あい道路である特別区道深105号を拡幅する。
⇒緊急車両の容易な通行が可能となり、地域の防災性・安全性を向上。
⇒歩道状空地と路側帯の確保により、歩行者の安全性・利便性を向上。
⇒車両通行の安全性を向上。

【バス停の移設】

- 特別区道深105号の拡幅に伴い、都営バスのバス停を移設する。

■ 道路の廃止に伴う車両ルートの変更(現況・従後)

